

一般演題口演 | 一般演題：小児・周産期

■ 2024年7月19日(金) 13:10 ~ 14:05 ▶ 第15会場(鹿児島県立図書館 2階 第1研修室)

[O42] 小児・周産期

座長:石井 亘(京都第二赤十字病院 救命救急センター 救急科)、藤田 基(山口大学医学部附属病院 先進救急医療センター)

13:24 ~ 13:31

**[O42-03] 非偶発性外傷に伴う頭部外傷後けいれん重積型二相性急性脳症
(TBIRD) の8ヶ月女児例**

*吉田 陽¹、山上 雄司¹、花田 知也¹、神納 幸治¹、伊藤 雄介¹ (1. 兵庫県立尼崎総合医療センター 小児救急集中治療科)

【緒言】近年、乳幼児の頭部外傷後に二相性急性脳症に類似したMRI画像所見と症状経過を辿るTBIRDが報告され、予後不良な症例も多く、小児頭部外傷の診療をする救急・集中治療医は熟知する必要がある。【症例】8ヶ月女児、体重8kg。食事中の意識障害のため、当院へ搬送された。CTで両側硬膜下血腫を認め、MRI拡散強調画像で両側大脳皮質・皮質下に高信号領域を認めた。意識障害残存のためPICU入室となった。意識レベル低下が遷延し、第4病日より脳波で痙攣波が出現し、CTで脳浮腫が顕在化した。第5病日には痙攣発作が制御困難となり、気管挿管し、神経集中治療を行った。第10病日に抜管し、第13病日にPICU退室、小児用脳機能能力テゴリースケール3点であった。現在も入院加療中である。【考察・結語】TBIRDは小児救急集中治療医でも遭遇するのは稀であり、その発症経過や虐待との関連性に注意しなければならない。小児神経・脳外科専門医の助力も必要で、疑う場合には可及的速やかな診断と止痙攣、専門施設への搬送が必要である。